

[講演要旨]1855 年安政江戸地震における千葉・茨城領域の被害

村岸 純・佐竹健治・石辺岳男・原田智也・西山昭仁（東京大学地震研究所）

§1. はじめに

安政江戸地震は、安政二年十月二日夜四ツ時（1855年11月11日）に発生し、江戸市中を中心に関東地方に被害を与えた地震である。この地震の被害については多くの研究がある。例えば、中村・松浦（2011, 歴史地震）は、江戸市中の被害から震度分布図の作成や火災による焼失域の検討、さらには関東地方の被害を検討し震度分布図を作成している。また北原（2013, 『地震の社会史』）は、江戸の町ごとの被害や幕府による救済などの地震後の対応を明らかにしている。

この地震の震源の深さは、ごく浅い地殻内地震から100 km程度までの様々な見解がある[例えば引田・工藤（2001, 日本建築学会構造系論文集）、古村・竹内（2007, 地学雑誌）、中村ほか（2007, 歴史地震）]。

震源の深さを推定するためには、広範囲での震度分布を解明することが有効であると考えられる。これまでの研究により安政江戸地震による江戸市中での被害は復元されてきたが、その周辺の地域での被害は不明な地点が多かった。そこで本研究では、江戸市中以外の地域における被害を明らかにすることを目的として、昨年度より千葉・茨城領域で史料調査を行った。その成果を報告する。

§2. 千葉県域の被害

北西部の船橋市域では、『船橋市史 史料編十』所収の「地震変動控」に、「武蔵下総上総常陸四ヶ国大地震、多家潰」とあるのみで、船橋市域での被害状況が不明であった。船橋市郷土資料館において調査したところ、武藤家文書の『大福帳』の中に地震の記述を発見した。「当所ニ而者潰家一軒も無之、尚又、即死人も無難ニ御座候、行徳辺、市川辺、松戸近辺者相応ニ破家有之候、尚また怪我人も是村ニ而凡十人計り候有之由、去ながら当所ニおいてハ別段即死人も無之」とある。武藤家は商家で、現在の船橋市南部の宮本辺りに家があったらしく、この辺りでは潰れた家が出たり、怪我人が出たりするほどの被害はなかったと推定できる。一方で船橋の周辺地域の市川や松戸近辺では、被害があったことが読み取れる。

北東部の東金市台方村の名主が記した『前嶋治助日記』（『千葉県の歴史 史料編 近世1』）には、地震直後に北西部を通過したときの記録がある。名主の前嶋治助は江戸の領主より呼び出されたため、台方村を出発した。その道中、「地震之儀者行徳辺より家潰れ初、中川御番所より本所・深川大潰れニ而、誠ニ驚入申候」と、行徳付近から潰れた家が確認され始めたという。上述の史料中の、市川では被害があったと

いう記述と整合する。このようなことから船橋市域では、江戸市中と比べると被害が小さかったと推測される。

千葉県南部の被害については、千葉県文書館所蔵史料収集複製資料の中から、南房総市域にある宝珠院の日記を発見した。『安政二乙卯年日記』（南房総市府中 宝珠院文書）の十月二日の条には、宝珠院の石碑・石灯籠・宝篋印塔が倒れたこと、仁王門が西方へゆり出したことが記録されている。また、周辺の寺院にも被害があったことが記されている。本織村（宝珠院のある村の隣村）の加藤家文書（慶應義塾大学古文書室蔵）に『日記覚』があり、その中にも十月二日は「極大地震」であったことが記されている。江戸周辺のみならず、南房総においても強い揺れが強かったことが推測される。

§3. 茨城県域の被害

茨城県立歴史館に寄託されている「関沢賢家文書」には、天保五年（1834）～慶応四年（1868）の関沢家の日記（全10冊）が収められている。関沢家は、当時の野口村（現、茨城県常陸大宮市野口）の名主であり、紙問屋を営み、諸藩の蔵米を取り扱い、大名貸しを行うこの地域における豪商であった。

関沢家の日記には、日付の下に天気の記事があり、地震があった場合には「晴 夜九ツ頃地震」というように時刻が明記されていることが多い。安政江戸地震における野口村での被害については、当時関沢家の当主であった関沢克明により日記に記されている。日記には、「(十月)二日 小雨(中略)夜四ツ半頃地震 近年稀成大地震ノ下町ニ而見世向ヒサシ数ヶ所落土蔵痛数ヶ所」とあり、野口村の那珂川に沿った河岸地では、商家の庇が落ち、土蔵が破損している状況がわかる。

また、同月七日には「曇(中略)暮六ツ時小地震」、同十二日には「小雨(中略)少暖ノ八ツ頃小地震」などと記されており、二日の大地震以後も有感地震が発生していた様子がわかる。

§4. おわりに

安政江戸地震の全体像を明らかにするためには、江戸市中以外に広い範囲での被害を把握する必要がある。今後は関東地方の広い範囲で史料調査を行い、被害を明らかにしていきたい。

謝辞

本研究は文部科学省受託研究「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト」の一環として実施された。